

チルド温度帯を活用した和洋折衷スイーツやラップ包装の「蒸しパン」が寄与

	第1四半期	第2四半期	上半期
連結売上高（前期比）	188億円（103.2%）	159億円（100.0%）	346億円（101.7%）

和生菓子 (168億円、106.8%)

- ・主力の串団子に加え、チルド温度帯を活用した和洋折衷スイーツの「クリームたっぷり生どら焼き」が順調。
- ・自家製造「餡(あん)」を新規製法に切り替え、品質向上に取り組む。よりおいしくなった「餡(あん)」を活用し、新製品開発に挑戦。

蒸しパン (76億円、100.0%)

- ・コンビニエンス向け苦戦も、「熟成厚焼きたまご風蒸しぱん」等、ラップ包装の蒸しパンが順調に推移し、前年並み。
- ・チルド温度帯を活用した蒸しケーキの開発に取り組む。8月「北海道チーズ蒸しケーキのとろけるぶりん」を発売。

焼菓子 (33億円、96.2%)

- ・「特撰月餅」等、特撰シリーズ順調も、「ブッセ」が苦戦。
- ・チルド温度帯を活用した「ブッセ」の開発に取り組む等、回復図る。

中華まん (36億円、89.8%)

- ・「具たっぷり」シリーズやコンビニエンス向け即食製品が苦戦。
- ・秋シーズンに向け「具たっぷりシリーズ」の具、生地、品質向上に加え、「ずっしり肉まん」等、満足感のある製品の充実で回復図る。

■和生菓子

※チルド温度帯を活用した和洋折衷スイーツ



(クリームたっぷり生どら焼き)

※自家製餡を新規製法に切り替え、品質向上を図る



9月発売（ずっしり豆大福）

■焼菓子



(特撰月餅)

※チルド温度帯を活用



(たっぷりクリーム生ブッセ(いちご))

■蒸しパン

※売上好調 ラップ包装製品

※チルド温度帯を活用



(熟成厚焼きたまご風蒸しぱん)



(北海道チーズ蒸しケーキのとろけるぶりん)

■中華まん



(具たっぷり肉まん)



(ずっしり肉まん)

※各製品の（ ）内は山崎製パン単体での売上高と前期比